

2025年第5回中山競馬特別レース名解説

<第1日>

○イルミネーションジャンプステークス

イルミネーション (Illumination) は、「照明」「電飾」を意味する英語。近年ではクリスマスを彩る装飾として、全国各地でクリスマスツリーや街路樹などに電飾が施される。

○葉牡丹賞

葉牡丹（はぼたん）は、ヨーロッパ原産のアブラナ科の越年草。江戸時代にキャベツを観賞用に品種改良したものと考えられており、冬になると中心の葉が白・黄・紫などに色付く。花言葉は「利益」「祝福」。

○鹿島特別

鹿島（かしま）は、茨城県の南東部、太平洋沿岸の地域。名は常陸国の一宮、鹿島神宮に由来する。同神宮は茨城県鹿嶋市にある神社で東国三社のひとつ。社殿は重要文化財となっている。また、プロサッカークラブの鹿島アントラーズのホームタウンとしても有名。

○スポーツニッポン賞ステイヤーズステークス (G II)

本競走は、1967年に創設された重賞競走。平地競走の中では最長の芝3600mで実施される。1997年に負担重量がハンデキャップから別定に変更された。

ステイヤー (Stayer) は、「耐える者」を意味する英語。その名が示すとおり、人馬とともに長丁場を耐え抜く持久力が求められる。

スポーツニッポンは、スポーツニッポン新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○南総ステークス

南総（なんそう）は、旧国名である上総の別称。「南総里見八犬伝」のモデルとなった里見氏の城下町である館山市などを含む、千葉県中部・南部を指す。

○市川ステークス

市川（いちかわ）は、千葉県北西部の市。梨の生産や海苔の養殖が盛ん。また、江戸川を挟んで東京都と隣接し、都心へのアクセスに優れていることから、衛星都市として発展している。

○ラピスラズリステークス（L）

ラピスラズリ（Lapis Lazuli）は、藍青色を呈した鉱物。古代から飾り石として用いられ、12月の誕生石の一種としても知られている。主な産出地はアフガニスタンで、「瑠璃」「ラズライト」とも呼ばれる。

<第3日>

○黒松賞

黒松（くろまつ）は、マツ科の常緑高木。樹皮は灰黒色で、亀甲状の裂け目がある。葉は2枚ずつ対に付き、針状で硬い。潮風に強いことから、防風林として用いられている。

○アクアラインステークス

アクアライン（Aqualine）は、海上道路と海底トンネルからなる全長約15.1kmの自動車専用道路で、千葉県木更津市と神奈川県川崎市を結ぶ。1989年に着工し、1997年に開通した。海上パーキングエリア「海ほたる」では東京湾の360度オーシャンビューやショッピングを楽しむことができる。

○常総ステークス

常総（じょうそう）は、茨城県南西部の市。2006年に水海道市が結城郡石下町を編入し、改称して現在に至る。江戸時代以降、鬼怒川の河川水運によって周辺地域の中核都市として発展した。また、旧国名の常陸国と下総国の併称としても用いられる。

<第4日>

○霞ヶ浦特別

霞ヶ浦（かすみがうら）は、茨城県南東部の湖。鹿島灘寄りの北浦に対し、西浦とも呼ばれる。面積は220km²で、琵琶湖に次いで国内第2位の広さを誇る。湖の大部分が水郷筑波国定公園に含まれている。

○師走ステークス（L）

師走（しわす）は、陰暦12月の異称。季語や時候の挨拶などに用いられる。

○カペラステークス (GⅢ)

本競走は、秋季競馬における短距離ダート競走の充実を図る観点から、2008年に創設された重賞競走。

カペラ (Capella) は、ぎょしや座のアルファ星。ラテン語で「雌の仔ヤギ」を意味する。カペラ・アルデバラン・リゲル・シリウス・プロキオン・ポルックスの6つの恒星で冬のダイヤモンドを構成する。

<第5日>

○ひいらぎ賞

ひいらぎは、モクセイ科の常緑高木。葉は対生し、長楕円形で鋭い鋸歯がある。初冬になると、葉腋に白色の芳香がある花をつけ、核果は紫黒色に熟する。花言葉は「先見の明」「歓迎」。

○香取特別

香取 (かとり) は、千葉県北東部にある市。2006年に佐原市・小見川町・山田町・栗源町の1市3町が合併して誕生した。市内にある香取神宮は、東国三社のひとつに数えられ、中世以降は下総国の一宮、明治以後は官幣大社に列し、昭和に勅祭社に治定された。

○ターコイズステークス (GⅢ)

本競走は、2015年に創設された重賞競走。2017年にGⅢ競走に格付けされた。

ターコイズ (Turquoise) は、12月の誕生石の一種で、別名トルコ石。トルコでは産出されないが、トルコを通じてヨーロッパに輸入されたため、その名がついたといわれている。色は碧青または淡緑で、その独特な色合いから「ターコイズブルー」とも呼ばれる。

<第6日>

○チバテレ杯

チバテレは、1971年に開局した千葉市中央区に本社を置く千葉テレビの愛称。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○北総ステークス

北総 (ほくそう) は、旧国名である下総の別称。現在の千葉県北部および茨城県南部の地域を指す。住宅地として開発が進む一方、サツマイモや大根などの近郊農業も盛ん。

○ディセンバーステークス（L）

ディセンバー（December）は、「12月」を意味する英語。ラテン語で「10」を意味する「Decem」が語源とされ、古代ローマで初期に使用された、現在の3月から始まる暦において10番目の月という意。

<第7日>

○ベストウィッシュカップ

ベストウィッシュ（Best Wishes）は、相手の幸せや成功を願う際に使われるフレーズ。手紙やメールの文末では結びの句としても用いられる。

○農林水産省賞典 中山大障害（J・G I）

本競走は、1934年に創設された障害重賞競走。当時中山競馬俱楽部の理事長であった肥田金一郎氏が、東京競馬場の東京優駿（日本ダービー）に匹敵する中山競馬場の名物競走とする目的で設けた。競走距離は幾度かの変更を経て、1972年秋に創設時の4100mに戻された。また、1999年に障害競走の最高峰であるJ・G Iに格付けされ、負担重量も別定重量から定量に変更された。なお、1998年までは春・秋の年2回実施されていたが、1999年から春は『中山グランドジャンプ』として実施されている。

○ホープフルステークス（G I）

本競走は、『ラジオNIKKEI杯2歳ステークス』を前身とする重賞競走。2014年にG II、2017年にG Iに格上げされ、2歳中距離路線の頂点を決める競走として位置づけられている。『皐月賞』と同じ舞台で実施されることから、来春のクラシック路線を占う一戦としても注目される。

ホープフル（Hopeful）は、「希望に満ちた」「望みを持つ」を意味する英語。

○グレイトフルステークス

グレイトフル（Grateful）は、「感謝する」「ありがたく思う」を意味する英語。

<第8日>

○ハッピーエンドカップ

ハッピーエンド（Happy End）は、「幸せな結末」を意味する英語。幸せな1年の締め括りを迎えるようにとの意味を込め、この名が冠されている。

○グッドラックハンデキャップ

グッドラック（Good Luck）は、「幸運」を意味する英語。「幸運を祈る」「上手くいくことを願う」という意味で、相手を励ます言葉として用いられる。

○2025フェアウェルステークス

フェアウェル (Farewell) は、「別れ」を意味する英語。「ごきげんよう」「さようなら」という意味で、別れ際の挨拶として用いられる。

○有馬記念 (G I) (第70回グランプリ)

本競走は、1956年に創設された『中山グランプリ』を前身とする重賞競走。当時の日本中央競馬会理事長であった有馬頼寧氏が、中山競馬場新スタンド竣工を機に「東京優駿（日本ダービー）に匹敵する大レースを」と提案し、創設された。しかし、第1回の実施から間もない翌1957年1月9日に有馬氏が急逝したため、同氏の功績を称えて『有馬記念』と改称された。以来、年末の風物詩として親しまれ、幾多の名馬が名勝負を繰り広げてきた。

なお、本競走は『宝塚記念』と同様、ファン投票によって出走馬が選定される。

○2025ファイナルステークス

ファイナル (Final) は、「最終の」「最後の勝負」を意味する英語。本競走は、今年度の中央競馬を締め括る競走として実施される。